

# 「ゼンニ」 総合計画

## 第6次菟野町総合計画策定検討委員会 専門委員 岩崎 典 先生に聞く

総合計画の策定検討委員会に専門委員として  
参加する四日市大学学長 岩崎 典 先生に  
総合計画の必要性や第6次菟野町総合計画の  
ポイントについてお聞きしました。

く、とにかく行政が押し進める計画を列挙したものが多く、関係者のごく一部の方のみに伝わればいい内容を羅列してあるケースが多かったです。ですが、2000年頃をターニングポイントとして変化し、自治体によっては住民の意見を取り入れたり、行政以外の機関や住民が果たすべき役割などを記載する自治体も見受けられるようになりました。それはなぜかと言うと、行政だけでは物事が進まなくなってきた側面があるからです。少子高齢化、人口減少社会において担い手が不足し、住民や企業の社会貢献活動、NPO法人、ボランティア団体などさまざまな団体に協力してもらわなければ、これまでの水準を保つことができなくなってしまう背景があります。そのため、現在の各自治体の総合計画は、工夫を凝らしてさまざまな計画や役割が記載されており、言うならば行政と住民との約束事を総合計画が示していると言えるかもしれません。

### 刷新された冊子にも注目して

**各** 自治体ごとの総合計画に關して少しだけ紹介します。町など人口規模が小さい自治体の総合計

# 行政と住民との約束事を示す それが総合計画

### 住民参加による取り組み

画は、その自治体の個性が特に表れやすく、策定の方法や方針も実にご性的です。県内の各自治体でも、目指すべき目標を全て数値で示したり、若年層の担い手たちが中心となって策定を進めていたりそれぞれ個性が大いに感じられます。今回策定した第6次菟野町総合計画も菟野町としての個性がよく出ています。まず、完成した冊子を開くと写真などのビジュアルがどのページを開いても目に入り、色合いも非常にカラフルで見やすく、これまでの菟野町の総合計画と見比べると、全く違った構成になっていることに気が付くと思います。私自身が客観的に見て「スタイルとしてかなり踏み切ったな」という印象を抱いています。これは、策定検討委員の皆さんの意向などを踏まえての結果ですが、冊子一つをとってみても菟野町の個性が感じられるものになっています。ぜひ、これまでと違うスタイルとなった冊子を確認してもらいたいと思います。

### 住

民参加の取り組みを積極的に取り入れた部分も他の自治体の総合計画と異なる部分であると言えます。住民参加を謳う総合計画は近年多くなっていますが、冊子内にフォトコンテストで募った写真や公募したサブタイトルを掲載しているものは近隣市町ではなかなかないと思います。そういった部分から住民みんなで作りあげる総合計画というかたちを打ち出していたことは新しい試みであると言えます。

また、総合計画の策定プロセスの中でも地区懇談会や小中学生へのアンケートなどを実施し、住民の声を積極的に取り入れた部分もこれまでの菟野町の総合計画にはあまりなかった部分であるかもしれません。聞き取った意見を反映させ、住民みんなで作り上げた総合計画であること胸を張って言えるものになっていると思います。

## 四日市大学 学長 岩崎 典 Iwasaki Yasunori

### PROFILE

京都府宇治市出身。早稲田大学政治経済学部を卒業し、同大学院政治学研究所自治行政専修修了。自治省外郭の研究所、中央学院大学法学部助教授を経て、平成13年に四日市大学総合政策学部教授に着任。平成25年に四日市大学副学長に着任し、平成28年9月から現職。専門分野は、地方自治制度、市民参加論、コミュニティ論。菟野町総合計画策定検討委員としては、第5次菟野町総合計画、第6次菟野町総合計画において専門委員として参画。



▲町内5地区で開催した地区懇談会の様子



▲町内関係団体の代表者等で構成された総合計画策定検討委員会

### 菟野町のこれからのために

### 最

後に今後の菟野町において、これからの約10年間でさらに大きな変革が起こることが予想されます。少子高齢化が加速し、85歳以上の人口は現在のほぼ倍になることが予測されます。人口は緩やかに減少し、地域でどのように支えていくかが課題として明確になってきます。そこで私が対策として考案するのが技術革新の活用と町内5地区での支えあいです。

現在50歳代までがパソコン世代であると言われていて、そして、これからの約10年間で、ほとんどの年代がインターネットを利用できる世代になります。そうすれば技術を駆使して、もっと暮らしやすい生活の構築に臨んでいけるはず。

コミュニティで  
Community  
解決できるよう  
みんなで支えあう

また、菟野町は5地区が小学校区ごとに分かれています。特に教育などの面で地域で先生役の方を募ったり、中学校の部活動の指導を行ったりと支えあっているのではないかと考えています。地区で支えあうことによって、5地区のコミュニティごとに行政サービスが完結すれば、コンパクトに不自由なく高齢の方も生活していくことができ、移動手段に困ることも少なくなるはず。総合計画を踏まえて何か行動することは難しく感じるかもしれませんが、住民ができること、地域の役割として行政の仕事を認識することが大切です。菟野町のこれからのために、そういった意識を少しでも持つてもらえればと思います。